

2018年7月11日

## 胸部保護具・マスク・サーブルグローブ・武器に関する 規定適用について(通知)

公益社団法人日本フェンシング協会  
審判・ルール委員会

2017年11月のFIEコンGRESSにおいて、FIE競技規則の用具規定(m)が変更となりました。つきましては国内においては、2018年12月1日からの全ての大会に適用いたします。変更点について掲載いたしますので、周知の程お願いいたします。

注：(4)使用する武器については除く

### (1) 胸部保護具(チェストプロテクター/メタル製や硬い素材製)の着用について

#### ・m.25-4 ジャケット

c) 全種目で胸/胸部保護具(メタル製や硬い素材製)の使用は、女子は義務で男子は任意である。フルーレでは、この胸/胸部保護具は保護用プラストロン(FIEプロテクター800N)の下に着用しなければならない。

またフルーレでは、胸の保護具(プロテクター)は、下記の特色を有する:胸の保護具の外側全体(相手に面している側)は、厚さ4mmで  $22\text{kg}/\text{m}^3$ の密度のE.V.A(エチレン-ビニール、アセテート)のような柔らかい素材で覆われていなければならない。(素材は、現行のプラスチックモデルに取り付けたり、製造業者の新しいプロテクターに組み入れたりできる。)

素材は、上部エッジの中央に SEMI のテクニカルマークを備えていなければならない。

### (2) マスクの着用について

#### ・m.25-7 マスク

f) マスクは、マスクの後ろに2つの異なる安全システムを備えており、そのシステム(バンドまたはストラップ)の両端がマスクの両側に固定されていなければならない。この安全システムは、SEMI委員会によって認可された下記の条件を満たしていなければならない。

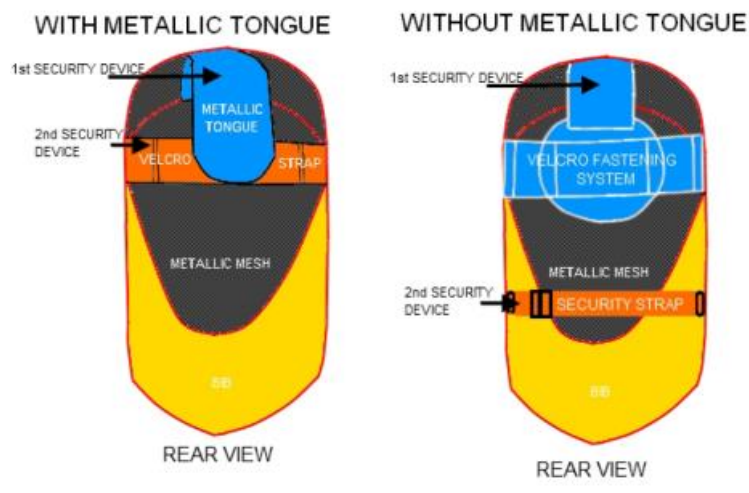
### 【メタル・タング付きマスク】

- 中央のバンド(ストラップ)は、幅 45mm 以上でなければならない。
- バンドの位置は、マスクが滑り落ちない事を確実にするように、頸部区域の後ろを横切る十分に低い位置に取り付けられていなければならない。
- バンドは、丈夫な素材でなければならない、また伸張時に永久的な造型上の変形を持続してはならず、迅速に元の形とサイズに戻らなければならない。
- 固定システムは2重でなければならない、即ち2重の安全確保システムで締められていなければならない(ベルクロが少なくとも2回接着されていなければならないという意味である)。
- ベルクロは、最低限750N/cmの強度を備えていなければならない。
- ベルクロで取り付けられているバンドは、同じ強度を伴ってマスクの両側に固定されていなければならない。

### 【メタル・タングを伴わないマスク】

- 主要なバンドの位置は、マスクが滑り落ちない事を確実にするために十分に低くければならず、正しい位置は製造業者によって決定されなければならない(基本的には 25/30mm)。
- バンドは3ヶ所の固定点を含まなければならない。
- 既にある磁気ストラップは、依然として必須である。

下記の図にある例を参照の事：

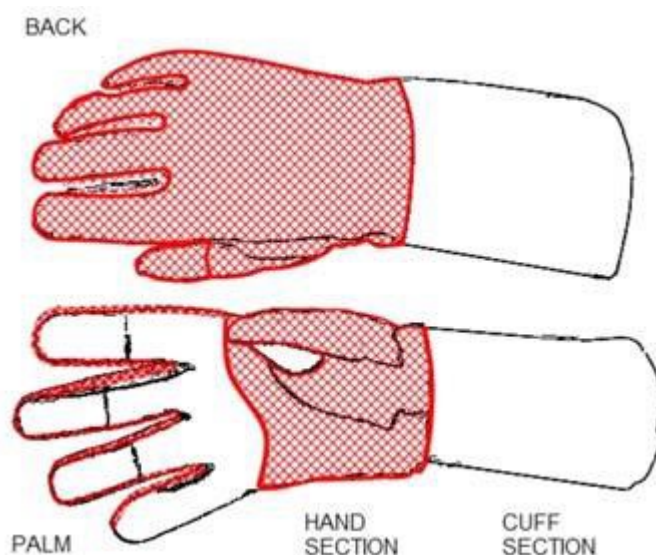


上図は指導目的のためだけである。疑問のある場合は当該テキストの表現が優先する。

### (3) サーブルグローブについて

#### ・m.33

1. フェンシング用手袋の素材は、下記の図に表示されている部分で800Nの保護レベルと、200Nの最低強度のシームと350Nの保護レベルのカフを有していなければならない。取り外し可能な又は固定できる伝導性素材は、選手が「アン・ガード」の姿勢である時も、剣を持っている腕がまっすぐの時も両方とも、前腕外側茎状突起(手首部の突起した小さい骨)の下まで手袋のカフの全体を覆っていなければならない。手袋の内側は、ホモロゲーション手続き後に授与される、製造年度と800Nの記載があるFIE品質ラベルが取り付けられていなければならない。



### (4) 使用する武器について

#### ・用具規定付属文書 A 武器(1.刀身)

#### 8. 刻印

製造業者の認識マークと製造年月日(年と月)は、常温刻印によってコキーユの入口近くに最大限度 0.5mm の深さで刀身に付けられなければならない。

注：全日本選手権大会(個人戦・団体戦)及び国民体育大会については適用する。他の大会については各々の大会要項の規定による。

以上